

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-021

名前：奥村啓太

学会名：KIMES2025

開催場所：COEX 韓国 ソウル

開催期間：3月20日（木）～3月23日（日）

発表セッション名：発表無し

発表形態：発表無し

発表日時：発表無し

1. 発表の概要

発表無し

2. 質疑応答内容 他

発表無し

3. 関連発表の内容

発表無し

4. 学会参加の感想

韓国で開催された KIMES 2025 に参加し、将来、診療放射線技師を目指す 1 人として貴重な経験を得ました。展示会場では最新の医療機器や技術を見学し、放射線診断や治療分野における最先端技術を体感しました。特に AI 技術を活用した装置が多く、超音波画像診断装置の説明を聞きました。これらの技術は患者さんの負担軽減と診断精度の向上に寄与するものであり、今後の臨床現場での活躍が期待されます。

また、各国の医療従事者による学術発表を聴講し、非常に刺激を受けました。中には日本人の放射線技師の方々が発表されており、特に興味を持ったのは「タスクシフト」に関する発表でした。タスクシフトとは、医療現場において特定の業務を専門職から他の職種に移行させる取り組みであり、医療提供体制の効率化や負担軽減を図るものです。発表では、診療放射線技師が従来は医師が担っていた業務を一部代替することで、業務効率化と専門性の向上を実現している事例が紹介されました。例えば、画像診断の初期読影や定量評価のサポートを診療放射線技師が担当することや、造影剤などの静脈確保を行うなどです。こうした取り組みは、業務範囲の拡大と責任の増大を伴うため、高度な専門知識と技術力が求められますが、その分キャリアの幅も広がると感じました。ま

た、多職種連携を意識したコミュニケーション能力も求められるため、技師としての専門性を高めるだけでなく、他職種との円滑な連携や理解が不可欠であると改めて実感しました。今回の KIMES 参加を通じて、技術革新やタスクシフトによる診療放射線技師の役割変化を実感しました。今後は、自らの技術と知識を高めながら、チーム医療の一員として貢献できる力を養いたいと考えています。また、国際的な学術交流に触れたことで、英語や専門知識を駆使して自ら発表できる力を身につけたいとの思いも強まりました。技術力とコミュニケーション力の双方を磨き、患者さんにとって最善の医療を提供できる技師を目指していきたいと思います。KIMES 2025 で得た知見と刺激を糧に、さらなる成長を目指して努力していきます。

6. 現地参加がわかる写真(4 枚)

